

持続可能でジェンダーに公正な社会づくりに向けての提案

円卓会議 北九州 参加者

主催（財）アジア女性交流・研究フォーラム
2002年2月9日(土) 10:00-16:00

2002年2月9日、円卓会議 北九州に集った、九州・山口地域の環境とジェンダーに関心を持つ参加者18人は、持続可能でジェンダーに公正な社会づくりに向けて次のように提案します。

[意思決定への女性の参画]

- ・ 環境に関する政策決定の場における女性の参加を増やすために、市町村・都道府県・国などのあらゆるレベルにおいて**女性議員を増やす**。その方法として、政党助成法により公的資金を受け取っている政党は男女同数の候補者を上げること、地方議会議員の選出に当ってはクォータ制を導入することを法律により定める。さらに、さまざまな意思決定の場における女性の参画を推進するため、各都道府県・市町村において**男女共同参画推進計画**を策定する。また、企業や行政などの管理職に、環境保護やジェンダー平等に敏感な女性を登用する。

[女性の参画を促進する条件作り]

- ・ 環境に関する決定や環境保全活動に男女が共に参加できるよう、育児、家事、介護などの**家族的責任における男女の平等な分担**を促進する。家族経営協定の考え方を、専業農家だけでなくあらゆる状況にある家族に広げるなどして、家族の間の男女平等を推進する。また、男女不平等をもたらす**社会保障制度**を見直し、特に、税制、年金などにおける世帯単位を個人単位に改める。
- ・ **女性の経済的自立**を促進するため、雇用や昇進における男女差別、とりわけ賃金格差を解消し、育児や介護を社会的に支援する制度を整備する。

[環境保全活動を通じた男女共同参画の推進]

- ・ 国または地方自治体が、環境保全や開発のために事業を行い、また補助金を支給する場合、事業実施者、補助金の受給者、実施企業は、第三者機関による環境影響評価に加えて、**男女共同参画推進計画**を策定し、その評価を報告するよう義務づける。
- ・ 地方自治体や企業が、市民、特に女性の参画に基づき **ISO 規格**などの国際的水準を取得するよう推進するとともに、企業、学校、家庭などにおいて**独自の環境基準**を作成、普及することで、環境保全にコミットするとの意思表示をする。
- ・ 森や水などの自然資源の管理者および**生物多様性**の保護者として女性の役割を評価するとともに、これらの環境保全活動における女性の低賃金労働や**アンペイド・ワーク**を排し、女性の経済的エンパワメントにつながるような、持続可能な経済システムの構築を進める。
- ・ 環境や健康への負荷を減らすため、風力、太陽、バイオマスなどの**再生可能エネルギー**や、燃料電池などの**新エネルギー**の開発と利用を、男女の対等な参画に基づいて進める。
- ・ 自然の**生態系を無視した開発**は、自然資源を利用して生活の糧を得ている人びとの生活を破壊する危険があることに留意し、これら脆弱な立場にある人びと、とりわけ女性の発言の場を保障する。

[環境関連情報、科学・技術・健康教育]

- ・ 廃棄物処理や遺伝子操作などを含む環境関連の**科学技術情報**への男女の平等なアクセスを保障する。
- ・ 放射性物質を含む化学物質などによる環境の悪化が**健康**におよぼす影響について、性別を重視した調査を行い、結果を公開し、対策を進める。
- ・ 先端技術を含む科学技術および健康に関する女性の知識を高め、持続可能な発展に寄与できるよう、女性に対する**科学・技術・健康教育**を推進する。

[女性の知識・技術の評価、環境教育]

- ・ 女性が継承してきた**自然資源に関する知恵や知識**、技能、体験は、環境や健康を守るために重要である。これらを次世代に継承するため**教育システム**に統合する。伝統的な食文化を教育、特に学校給食に取り入れ、循環的な視点での食農教育を推進する。

[地域の自立性]

- ・ 経済のグローバル化の進展と世界に蔓延し、拡大しつつある貧困は、環境破壊と相俟って、男女の不平等を助長している。これに対する一つの方法として、都市と農村や生産者と消費者の連携など、顔の見える関係に基づく、地産地消のような**地域を単位とした環境・農業を守る活動**を促進する。また、男女の平等な参画に基づき、住民の意思を方針決定に反映しながら**地域独自の食の安全基準と安全保障**を確立する。

[市民と行政とのパートナーシップの確立と地域を担う人材の育成]

- ・ 市民、とりわけ女性が、地域をつなぎ、環境保全のために質の高い活動をしてきていることを評価し、これらの市民活動を支援し、**行政と対等なパートナー**として市民の活動の場を保障する。また、都市計画やまちづくりにジェンダーの視点が生かされるよう緊急に**人材を育成**する。

[人権]

- ・ 環境および開発問題の解決に当っては**人権**、特に女性の**リプロダクティブ・ヘルス/ライツ**を保障する。また、HIV/AIDS の課題は、貧困や人権と深く関わっていることに留意し、持続可能な開発に当っては優先的課題として取り組む。
- ・ 経済のグローバル化に伴い、**貧困の女性化、女性の性の商品化、児童買春、児童労働**が拡大しつつあることから、これらの解消を目指す政策を進め、社会全体の課題とする。

[地球温暖化、持続不可能な生産と消費]

- ・ **地球温暖化**が、地球上の脆弱な人びとをさらに困難な状況に追いやっている。**非持続的な生産と消費**を改め、地球温暖化を抑制するためのあらゆる努力に際しては、男女の平等な参画を原則とし、その具体的な取り組みにおいて**固定的性別役割分業**を強化しないよう注意する。

[持続可能な開発のための資金]

- ・ 経済のグローバル化の進展により、開発途上国に住む女性や先住民族が一層不利な立場におかれることが多い。**ODA (政府開発援助)**の計画、実施、監視、評価に際し、特にこれらの脆弱な立場にある人びとの利益を中心的課題とし、かつ問題が見つかった場合、問題解決にむけての対応を義務づける。また、これらの活動に関するすべての**情報を公開**する。

円卓会議「持続可能でジェンダーに公正な社会づくりに向けての提案」

参加者

(2002年2月9日 於 北九州市)

- 荒木 ひとみ(くらしと廃棄物を考える熊本の会事務局長・川辺川を守りたい女性たちの会)
井上 恭子(JA北九東部参与)
織田 由紀子(財団法人アジア女性交流・研究フォーラム主任研究員)
小里 アリサ((財)水俣病センター相思社)
河北 洋子(原発いらんネットワーク会員・柳井市市議会議員)
川口 道子(NPO法人はかた夢松原の会理事長)
久保 幸枝(北九州市食生活改善推進員協議会会長)
小柴 久子(北京JAC山口事務局長・山口女性サポートネットワーク代表)
篠崎 正美(筑後川中島探検隊代表)
寺嶋 悠(債務と貧困を考えるジュピリー九州共同代表)
西住 幸代(グリーンコープ生協 福岡・北九州 小倉南支部委員長)
原賀 いずみ(環境ミュージアムボランティア、北九州インタープリテーション研究会代表)
平田 トシ子(九州女子短期大学教授・エフコープ理事長)
藤井 郁子(山口県田万川町議会議員)
前田 千賀子(もったいない総研フォーラム)
三隅 佳子(財団法人アジア女性交流・研究フォーラム理事長) *ファシリテーター
毛利 昭子(戸畑区婦人会協議会顧問)
森山 昌子(北九州市消費者問題婦人連絡協議会会長)

連絡先:

(財)アジア女性交流・研究フォーラム

〒803-0814 北九州市小倉北区大手町11-4

北九州市大手町ビル3F

Tel. 093-583-3434, Fax. 093-583-5195

E-mail: kfaw@kfaw.or.jp

<http://www.kfaw.or.jp>

円卓会議開催の趣旨と会議の様子

(財)アジア女性交流・研究フォーラム(以下、フォーラム)は、1990年北九州市のふるさと創生事業として設立された団体です。その設立の背景には、地域の産業公害に対して「青空が欲しい」という運動を組織し、敢然と立ち上がった地域婦人会の力がありません。従ってフォーラムは当初より、環境問題を重要な柱の一つとしてさまざまな活動をしてきました。例えば、2000年9月、ESCAPのアジア太平洋環境大臣会議に併催して「アジア・太平洋環境女性会議」を持ったり、2001年9月にソウルで開催された「北東アジア女性環境会議」に日本のコーディネーターとして参加したり、現在進行中のヨハネスブルグ・サミットへの準備過程にも加わって参りました。

地球サミットから既に10年過ぎようとしている現状を見ますと、「アジェンダ21」で強調された、持続可能な開発を進めるためには男女平等を進めることが大切である、との認識がいまだに広く共有されているとは言えません。また、日本各地で環境問題や循環型社会づくりに取り組んでいるグループ、提言活動をしているグループ、女性団体などの持っているさまざまな思いや経験が、まとまった声として、世界に発信されているとは言えません。環境課題を省みない急速な経済発展や、男女が不平等な状態のままの経済成長は、持続可能で公正な社会にはつながらないことを、身をもって体験してきた日本の私たちこそが、その思いを世界に発言する責任があると思います。

フォーラムではこのような状況に対して貢献すべく円卓会議の開催を呼びかけました。男女平等、環境問題、持続可能な発展に関心を持つ人びとが一堂に会し、そこに持ち寄られる意見を「持続可能でジェンダーに公正な社会づくりに向けての提案」にまとめ、参加者共有の成果としてヨハネスブルグ・サミットへの準備過程に反映させてはどうかと考えたのです。こうして、北九州と東京の両会場で円卓会議を開催しました。

円卓会議 北九州は、2002年2月9日(土) 午前10時から午後5時まで、北九州市立女性センター“ムーブ”にて行われ、予定を1時間近く延長して熱心に討議されました。呼びかけに応じて集まった参加者は、熊本県、山口県、北九州市を含む福岡県各地から集まった、20代から80代までの女性です。女性団体で活動している人、農村で初めてのそして唯一の町議会議員を含めて地方議会の議員、農業協同組合や生活共同組合で中心的に活動している人たち、都市部や農村部においてNGO/NPOで環境活動や環境教育を推進している人たち、国内ばかりでなく海外において環境分野で国際協力をしているグループの代表、債務の問題などの国際的問題についてアドボカシー活動をしているNGOなど、実に多彩な顔ぶれでした。また活動暦も、最近始めた人から既に30年、40年続けてきている人まで非常に幅がありました。

参加者たちの取り組みの経緯は、自分たちの住んでいる地域に公害が発生し、ダム、原子力発電所、ゴルフ場、ゴミの廃棄場の設置、農薬散布などの問題が起こり、自然が破壊されたため立ち上がり、これを契機に広く環境や開発問題に目を向けるようになったものが多いようでした。これはまさに日本の地方ではいかに決定権の問題が重要かを反映するものと言えます。また、経済のグローバル化によりその基盤が危うくなっている日本の農業を支えながら農村を初めとする地域づくりを進めなければならないということも参加者の重要な関心事でした。このような地域に根ざした決定を考える時にもっとも問題となるのが地域における男女共同参画の問題です。従って、男女平等の実現と地方分権を同時に進めなければならないことが共通の関心事として浮かび上がってきました。(以上は会議の一端です。)